



平成25年度日米共同統合防災訓練(TREX) ～ 高知県沿岸部における日米共同統合防災訓練 ～

- | | |
|---|---|
| ○ 訓練全般（イメージ） | 1 |
| ○ 関係省庁等との共同連携（イメージ） | 2 |
| ○ 訓練時系列 | 3 |
| ○ オスプレイ飛行ルート（高知県） | 4 |
| ○ 日米共同統合防災訓練実施にかかる安全対策等
（高知県）（米軍航空機） | 5 |

平成26年1月21日
防 衛 省

訓練全般（イメージ）

○目的：南海トラフ地震を想定した対処について、在日米軍、自治体及び関係省庁との連携要領の確立を図る。
 ○実施時期：平成26年2月7日（金）
 ○実施場所：中国・四国、九州地域及び同周辺海・空域 （初の日米共同かつ統合による実動防災訓練）

①津波被害に伴う捜索・救助、患者搬送

イメージ

赤枠: オスプレイ活用場所

岩国基地
 陸自高知駐屯地（第1宿舎）
 日米共同による捜索・救難。「ひゅうが」への救助者の搬送。トリアージ、応急処置による安定化措置後、航空機による患者搬送
 津波被害により孤立が予想される地域で津波の影響のない自衛隊の駐屯地基地を活用

空自築城基地
 空自新田原基地
 空自土佐清水分屯基地

新行橋病院
 陸自高知駐屯地（第1宿舎）

②孤立地域への物資等輸送

イメージ

岩国基地
 陸自高知駐屯地（第1営舎地区）
 岩国基地から陸自部隊、救援物資等を孤立地域へ輸送
 孤立地域（想定）
 空自土佐清水分屯基地
 室戸市中央公園（運動広場）
 陸自北徳島分屯地

米軍機（MV-22オスプレイ）
 自衛隊機（物資等輸送）
 自衛隊機（航空偵察）

凡例
 ●：陸自駐屯地
 ○：空自基地
 ●：米軍基地
 ○：新行橋病院
 ○：孤立地域

土佐清水分屯基地・築城基地

- 県庁職員等輸送
高知駐屯地→土佐清水分屯基地
- 救援物資等受入
- 患者搬送（緊急患者空輸）
土佐清水分屯基地→築城基地→新行橋病院

護衛艦「ひゅうが」（土佐市沖1.5km停泊）

- 救難拠点
- 周辺沿岸部での捜索・救難
- 洋上SCU活動
 - ・ 患者の受入れ
 - ・ トリアージ、応急措置等
 - ・ 広域医療搬送引継ぎ

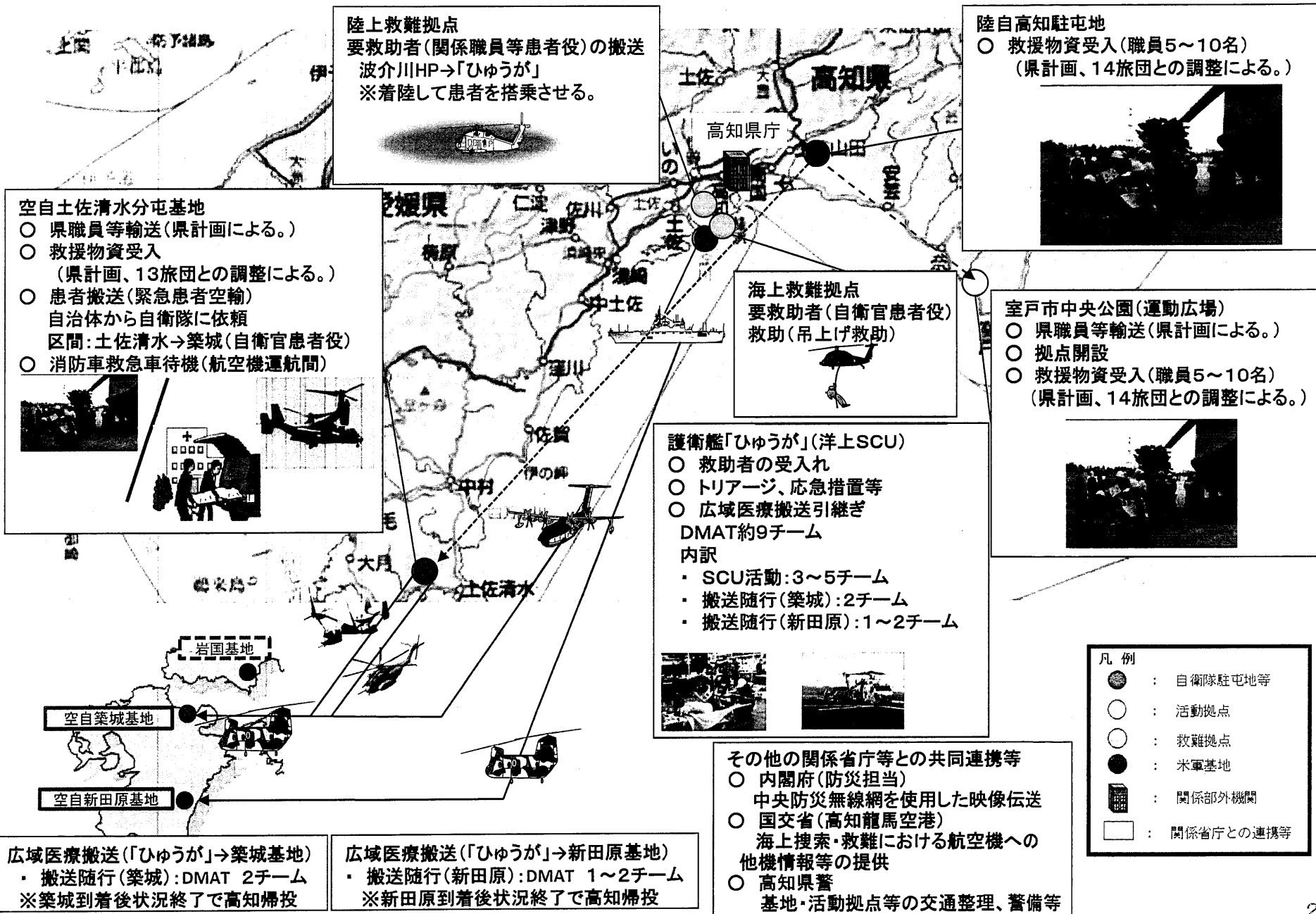
高知駐屯地

- 現地統制所開設
- 被災地内における航空機の運航拠点
- 救援物資等受入
- 航空燃料補給点開設

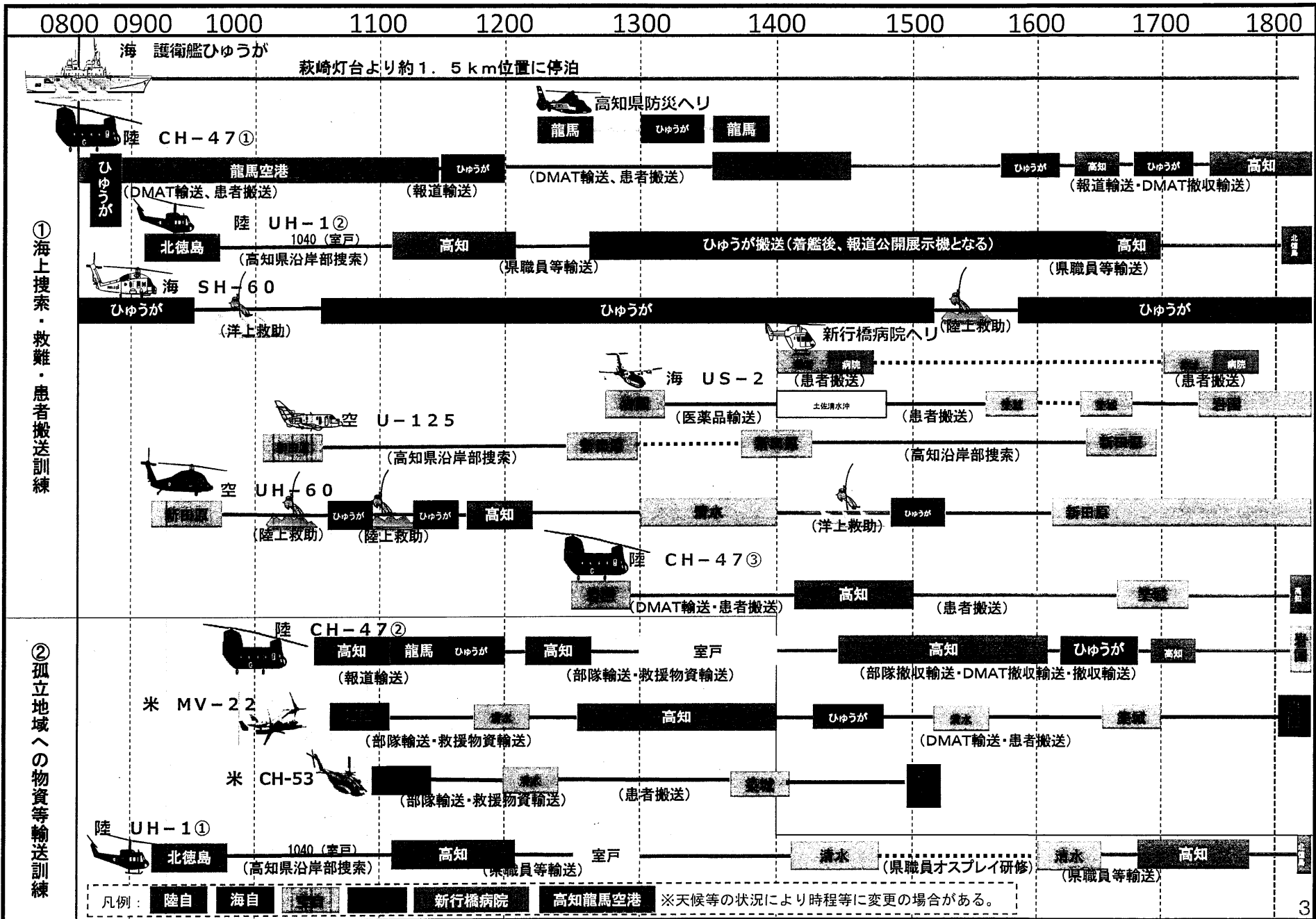
室戸市中央公園（運動広場）

- 県庁職員等輸送
高知駐屯地→室戸市運動公園
- 救援物資等受入
自衛隊ヘリによる物資等受入れ

関係省庁等との共同連携（イメージ）



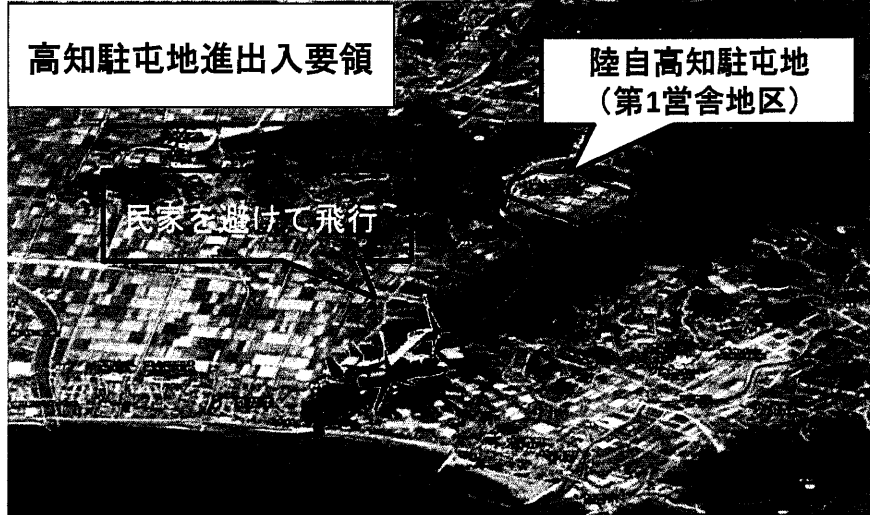
訓練時系列



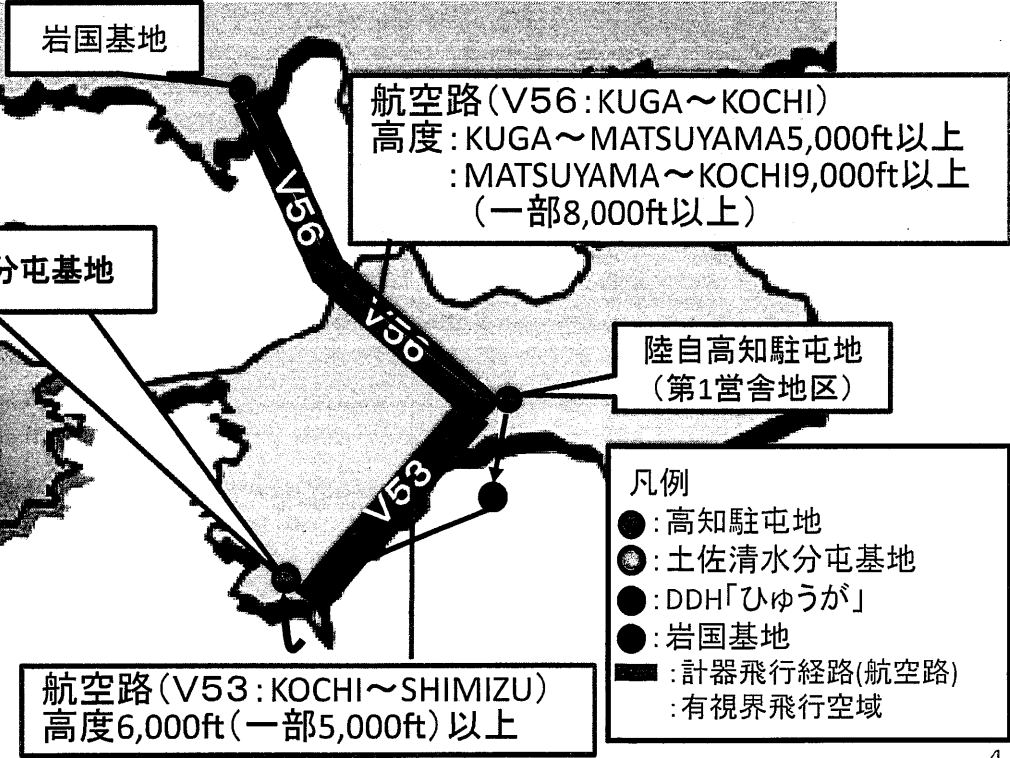
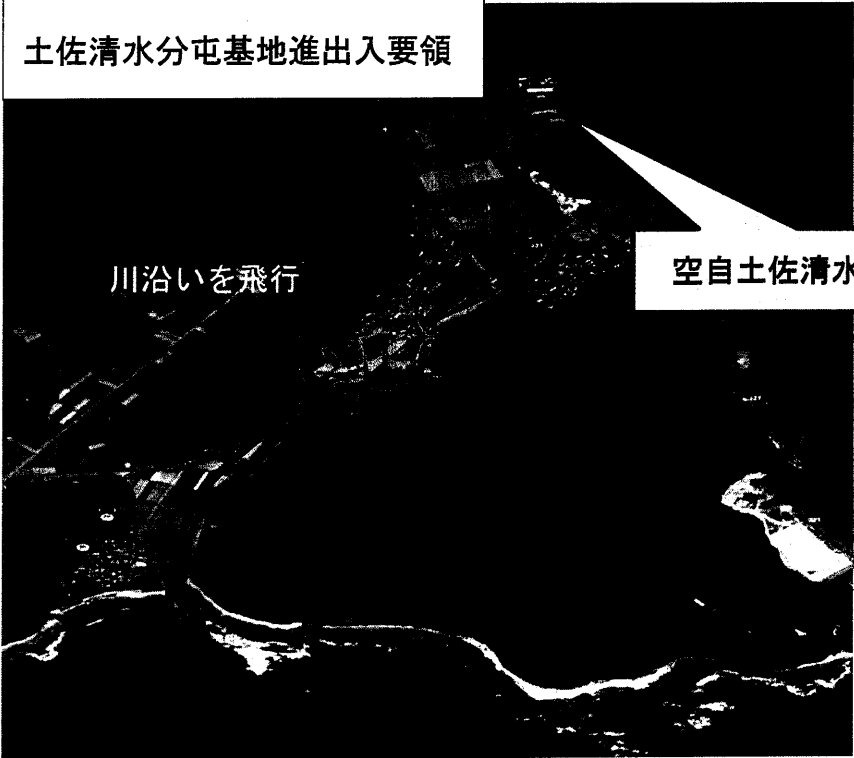
オスプレイ飛行ルート（高知県）

推奨飛行経路並びに各駐屯地等推奨進入及び進出経路

- 平成24年の合同委員会合意を踏まえた飛行要領
 - ・ 公共の安全性に妥当な配慮を払っての飛行
 - ・ 低空飛行時は、原子力エネルギー施設、史跡、民間空港、人口密集地域、公共の安全に係る他の建造物(学校、病院等)の上空を避けて飛行
- 高知への進出・帰投の飛行経路は、有視界飛行時は洋上を飛行、計器飛行時は航空路V53及びV56を使用(天候等による。)
- 飛行モードの転換は、努めて洋上で実施
- 各駐屯地等への進入は、稜線及び川沿いを飛行
 - ※ 飛行経路は、有視界飛行または、計器飛行で異なる(飛行条件等を勘案し最終的にパイロットが決定する。)



土佐清水分屯基地進出入要領





日米共同統合防災訓練実施にかかる安全対策等（高知県） （米軍航空機）

安全対策の徹底

【航空機の運航に関するもの】（統合幕僚監部から在日米軍に要請している内容）

- 一昨年の合同委員会合意を踏まえた飛行要領の実施
 - ・ 公共の安全性に妥当な配慮を払って飛行
 - ・ 低空飛行時は、人口密集地域、公共の安全に係る他の建造物（学校、病院等）、原子力エネルギー施設、史跡、民間空港の上空を避けて飛行
- 高知への進出・帰投の飛行経路は、有視界飛行時は洋上を飛行、計器飛行時は国土交通省が規定する航空路を使用
- 飛行モードの転換は、努めて洋上で実施
- 各駐屯地等への進入は、南の海上からアプローチし、自衛隊が進入する経路を踏まえ、稜線及び川沿いを飛行
- 離着陸時の高度には十分な安全を図る旨調整
（海岸線の進入時高度 高知駐屯地：約390m、土佐清水分屯基地：約300m）
※ 飛行経路は、有視界飛行または、計器飛行で異なる（飛行条件等を勘案し最終的にパイロットが決定する。）。

【自衛隊の支援体制に関するもの】

- 日米共同統合防災訓練期間中には、統合幕僚監部及び中国四国防衛局からも必要な人員を配置し、現地の自衛隊と協力しつつ速やかに飛行状況などの情報収集を行い、地元自治体等に情報提供できるよう体制を構築
- 航空機には統合幕僚監部の隊員を同乗させ、緊急時の連絡体制を確保

地元の皆様方に対する説明

- 当該訓練の内容等（MV-22の安全性、訓練時程等）については、地元自治体のご要望を踏まえ、誠意を持って地元の皆様方に対しての丁寧な説明を実施